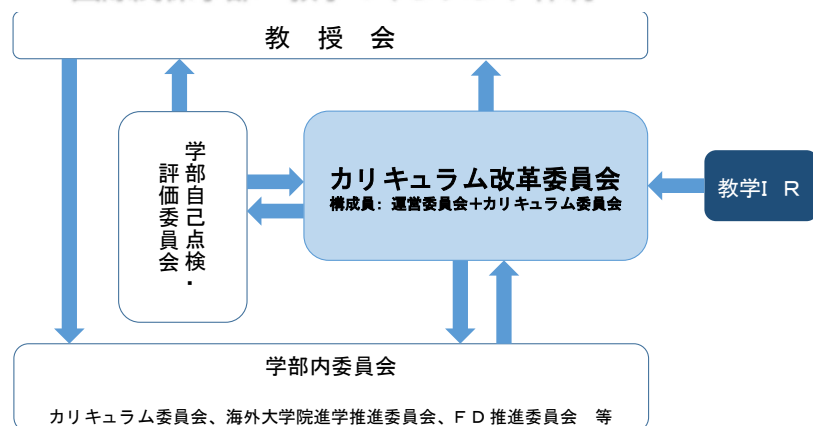


3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

運営委員会とカリキュラム委員会を構成員とするカリキュラム改革委員会を置き、カリキュラムの検証・改革、将来構想の事案についての推進体制を整えている。具体的には、学部内委員会（教学関係）からの情報・提案を基に、カリキュラム改革委員会が、教育等諸活動における課題に対する改善案を策定し、教授会で審議のうえ施策等を決定する。また、教学IR情報、学部自己点検・評価結果等を基に、学部教育の適切性を検証する。

国際関係学部 教学マネジメント体制



2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

① カリキュラムマップ

資質・能力の体系性に課題があることがわかり、英語基幹科目を中心に科目の再構築と資質・能力の見直しを行ったが、その他の改編もふまえてカリキュラムの整合性、体系性の精査が必要である。

② シラバス

段階的に学習レベルが上がる研究演習や基礎・発展演習のシラバスの到達目標にどのように順次性をもたせるのが課題である。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

カリキュラムの体系性や専門講義科目について専門性の積み上げを示し、履修順序の参考となるものがないことが課題である。

今年度の取り組み

① 2025（令和7）年度からの新カリキュラム実施に向けて、カリキュラムマップと各科目との整合性、体系性の精査に取り組む。

② 2025（令和7）年度の学年歴や授業時間にあわせて、すべての科目でのシラバスの見直し、特に各科目の到達目標のチェックを行う。

③ 新カリキュラムについて学生にわかりやすくカリキュラムの体系性を伝える方法を検討する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

・卒業成果物およびアセスメント科目の評価基準をDPとの対応においてより明確にする必要がある。

今年度の取り組み

- ・研究演習Ⅰ～Ⅳの評価基準を DP との対応において明確にし、科目担当者間で共有する。
- ・各科目の到達目標を授業初回において学生に明確に伝え、評価方法との関係性を説明する。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

- ・卒業成果物にかかわる研究演習Ⅳの評価基準を DP との対応においてより明確にする必要がある。
- ・3 年次アセスメント科目である IIRⅡにおいて学生の資質・能力修得実感が低い。
- ・学修者が到達目標の達成を実感できない科目があり、到達目標が適切に設定されているか検証する必要がある。

今年度の取り組み

- ・卒業成果物に繋がる研究演習Ⅰ～Ⅳの評価基準を DP との対応において明確にし、科目担当者間で共有する。
- ・2025（令和 7）年度新カリキュラムでは、1, 2 年次の国際関係英語科目が 3 年次アセスメント科目である IIRⅡに繋がるように改編し、各科目の到達目標を担当教員間で共有する。
- ・学習成果実感調査の分析を踏まえ、到達目標が適切に設定されているか点検・見直しを行う。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
・海外フィールド・リサーチ ・発展演習Ⅱ ・Issues in International RelationsⅡ ・研究演習Ⅳ	☐ 科目の成績評価 ☐ 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック） ☐ 学習成果実感調査 ☐ GPA ☐ 在学生調査（在学生生活に関するアンケート） ☐ 学部独自調査（学修・進路に関するアンケート）
	検証方法（卒業時）
	☐ 卒業研究・卒業論文 ☐ GPA ☐ 卒業時調査（4 年次生調査） ☐ 学部独自調査（卒業生アンケート）

取り組み内容（「8 つの資質・能力」の達成方法など）

学生がカリキュラムを通して、DP に定める学修目標に到達し、資質・能力が身についているかを、各種指標に基づき確認する。学部教学マネジメント体制のもと、学生の修得実感の低い科目については、FD などを通して授業改善をはかることで、目標の達成や学修者の修得実感の向上に努める。

その他

※この内容は 2024（令和 6）年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP への掲載を検討します。